

単元名 切ってかき出しくっつけて(立体)
配当時間 4時間

- 単元の目標** (1) 切り糸やかきべらを使い、様々な形の表し方を工夫して立体に表すことができる。
 (2) 切り口の形や組み合わせてできた形を基に、つくりたい物を考えるとともに、友達と作品を見せ合いながら、どのように用具を使用したかを捉え、よさや面白さを感じ取ることができる。
 (3) 粘土を切ったり、かきべらで削ったり、くっつけたりして、粘土の形を変えながらつくることを楽しもうとする。

標準的な展開例

03080201_001

【準備等】 土粘土（一人に2～3kg）、粘土板、切り糸、かきべら、雑巾、霧吹き

学 習 活 動	留 意 事 項 など
1 粘土に親しむ。 ○粘土と切り糸、かきべらをつかって、いろいろな行為を試してみる。 ・切り取る ・削る ・形をつくる ・つなげる ★ねん土で、いろいろな形をつくろう ○粘土のよさについて、発表する。 ・何度でも付け足せること ・いろいろな形にできること 2 切り糸の動かし方によってできる粘土の切り口や、かきべらの削り跡を味わいながら、自分の気に入った形にしていく。 ○試している段階で、面白いと思った形をつくる。 ・切り口から発想した形 ・具体物（動物・植物・品物） ○できた形を見合って楽しむ。 3 切ったり削ったりした形を組み合わせ、その形を生かして作品をつくる。 ○切ったり、削ったりした形を組み合わせ、発想を広げる。 ○いろいろな方向から見て、作品を完成させる。 4 出来上がった作品について発表し合う。 ○展示の仕方を工夫し、みんなで鑑賞する。	・教科書3・4上 P.16, 17 ・かきべらと切り糸を1人につき1セット用意する。 ・粘土が乾かないように、布巾と霧吹きを用意し、水分を調整する。 ・粘土を切ったり、削ったりしながら、粘土の質感を肌で確かめさせる。 ・実際に、教師がいろいろな形をつくると理解しやすい。 【評】用具を使って、いろいろな形に粘土が変わることを楽しむ活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・体験を通して、感じたことを自由に発言させる。 ・教科書 P.64を参考に、かきべら、切り糸の使い方を指導する。 ・具体物をつくることにはこだわらず、切ったり削ったりした形からの発想を大切にする。 ・接着する場合は、どべ（粘土を水でとかしたものを）を付けて、接着させる。 【評】用具を使ってできる形から、面白いと思った形を考え工夫して作る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・作品を友達同士で鑑賞し、これからどう変化させていくか、考えさせる。 ・作品を保管する場合は、霧吹きで水分を与えてポリ袋に入れ、乾燥しないようにする。 ・用具の使い方をいろいろ試して、できた形を活かすようにさせる。 【評】切り方や、かき出し方を試し、できた形を見て、つくりたい物を考える活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。 ・立体であるために、多方向から作品がどう見えるかを意識させたい。 ・廊下などに机を並べて、その上に展示して楽しませる。 【評】友達の作品を見て、その面白さや工夫を見付ける活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】